2021.12.14　物流ニッポン　6面

## ダイセー倉庫運輸■ドラコン

# 運転者の頂点めざし熱戦

ダイセー倉庫運輸（吉田憲三社長、愛知県小牧市）は11月27日、みよし市の中部トラック総合研修センターに全国7営業所と協力会社からドライバーを集め、ドライバーコンテストを開いて点検・走行競技で日頃培った技能を競い合った。

隔年で研修センターの専用コースと施設を使用し、全参加者がコンテストを通じて法令知識や点検技術、運転技能、安全意識の向上を目指す取り組み。今回からは自社が推進するJPL（ジャパン・ポリマー・ライインズ）杯を掲げ、看板となる「ジャスト便」ドライバーの頂点を目指す熱戦が繰り広げられた。

開会式で、吉田社長は「48年前に愛知県の小牧山のふもとで創業し、世の中に役立つことは何かを考えて出した答えがポリマーへの特化だった。今では、それが自動車生産や日々の生活に欠かせないプラスチックの原料として大量に使われ、事業を支える柱につながった」と回顧。

その上で、「今年も新型コロナウイルス禍で大変なことも多かったが、ポジティブに対策を進めてくれたお陰で、大きな影響を受けなかった。まだ油断はできないが、トラックとリフトのドラコンは最前線で働くドライバーの価値を高める当社にとって重要な取り組みなので、競技の中に日頃の成果を凝縮し、皆の成長を見せて欲しい」と激励した。

点検の競技を実施

大会は選手宣誓に続き、走行と点検の競技を実施。事前に行った学科競技と合わせて千点満点で採点し、終了後は点検競技を審査した愛知日野自動車（川村保憲社長、名古屋市瑞穂区）の担当者が、採点した点検箇所と日常点検の大切さを解説した。

## 「客観的に弱点見つけて」

表彰は、個人総合とチームの平均点で競うチーム表彰に加え、点検競技の最優秀選手に愛知日野自動車賞が贈られ、特長のあった選手には特別賞を授与。川村社長は「12回目の今大会は、人の暦で言えば一回りを終えたことになる。毎年、ドライバーはもちろん、イベントとしてのレベルアップも感じているので、競技を通じて客観的な視点で自身の弱点を見つけ、日々の業務に生かされることを願っている」と語った。

（梅本誠治）